

そよう病院だより



特集

知って得する
健康講座

第58集

「不整脈(頻拍性不整脈を中心に)」

研修医 田中 健一
医師 佐藤 啓

今回は頻脈性不整脈の話です。

頻脈とは脈が速くなる不整脈で、通常1分間に120回以上、多いときには400回にも達します。脈拍が速すぎると、心臓が空回りしてしまい全身に血液を送れない状態に至ることもあります。頻脈をきたす病態には、前回話題にあがった心房細動の他に洞性頻拍、発作性上室性頻拍、心室頻拍、心室細動、WPW症候群、QT延長症候群などがあります。

また期外収縮といって、本来電気の生じる場所以外から早めに刺激が出てくるために起こる不整脈があります。単発では心配ありませんが、頻発してくると動悸などの症状を伴うこともあり、原因の検索が必要になります。

一方、息を吸うと脈は速くなり、息を吐くと脈は遅くなります。運動や体温の上昇でも脈は速くなります。これらの脈の変化は呼吸性不整脈といって病的なものではなく、生理的な反応と言えます。

では、これらの中で特に重大な不整脈を一つ一つみていきましょう。



発作性上室性頻拍

発作性上室性頻拍では、心拍数が突然150回/分程度以上に跳ね上がるという頻脈発作が起きます。脈のリズムは規則的で、ただちに命の危険はないものの、胸の苦しさやめまいを伴い、やがて手足が冷えてきて顔面蒼白になり、更にひどくなると意識が遠のいたり吐き気を催したりします。発作の持続時間は数分以内のことが多いですが、まれに1時間以上も続くことがあります。発作は自然に止まる 경우가ほとんどですが、止まらないときは、息こらえや頸動脈の圧迫をすると治まる場合があります。この不整脈に効くお薬もありますし、異常な電気回路を焼き切るアブレーションという治療もあります。

心室頻拍

次に心室頻拍ですが、これは心室でリズムの早い電氣的な興奮が起こり、脈が突然速くなる病気です。これが生じると血圧が下がり、動悸、息切れ、失神などを起こすことがあります。意識がある場合には抗不整脈薬の注射が有効なこともあります。意識がない場合には電気ショックといった治療が必要になります。特に心筋梗塞や心筋症に関連して心室頻拍が起こり、それが数分以上続くと、より危険な心室細動に移行することがあるため、素早い処置が必要になります。

最後は先ほど出てきた心室細動についてです。

心室細動

心室細動は、心室の中で早くて不規則な電気のから回りが生じておこる不整脈です。原因はさまざまありますが、心室細動が起こると、心臓は小刻みに震えるだけとなり、血液を送り出すことができなくなり、心肺停止と同じ状態になります。そのため意識がなくなり、けいれんが起きることもあります。心室細動が起こったときは一刻を争って治療(電気ショック)しないと生命に関わります。AEDであれば一般の方でも使用できますし、心臓マッサージも重要な処置の一つとなります。

平成25年

住宅・土地統計調査

10月1日実施



総務省統計局 都道府県・市区町村

<http://www.stat.go.jp/> 総務省統計局

検索

住宅・土地統計調査はこんな調査です

住宅・土地統計調査は、「統計法」(国の統計に関する基本的な法律)に基づいた基幹統計調査で、昭和23年から5年ごとに行われ、今回は14回目の調査に当たります。この調査は、全国約350万世帯の方々を対象とした大規模な調査で、調査の結果は、国や地方公共団体における「住生活基本計画」の成果指標の設定、耐震や防災を中心とした都市計画の策定、空き家対策条例の制定などに幅広く利用されています。

1 調査の流れ



2 個人の情報は守られます

統計法では、調査対象者が安心して調査票に記入いただけるよう、調査員を始めとする調査関係者に対して、調査票の記入内容を厳重に保護することを定めています。



守秘義務

調査に従事して知り得た個人や団体の秘密を漏らしてはならない



利用制限

統計調査の目的以外に、調査票の記入内容を利用したり、提供してはならない



適正管理

記入された調査票を適正に管理するための措置を講じなければならない